



星をあつめる少女





ルナは夜空を見上げるのが大好きな女の子。

「いつか星に届きたい」

それがルナの夢でした。



ある夜、おばあちゃんが  
不思議なビンをくれました。  
「これは星を集めるビンだよ」

「でも星は遠すぎて届かないよ」

「本当にそうかしら？よく見てごらん」

おばあちゃんが指さした先。

水たまりに星が映っていました。

ルナはそっとすくいました。



ビンの中で小さな光がゆらゆら。

「できた！」

ルナが目が輝きました。

それからルナは毎晩星を集めました。  
露に映る星、窓に映る星、涙に映る星...



鳥

ある日、カラスがビンをくわえて  
飛んでいきました。

「あ！私の星！」



ビンは遠くの木の上に落ちて

割れました。

光がバラバラに散っていきます。



ルナは泣きました。

「全部なくなっちゃった...」

祖

「上を見てごらん」

散らばった光は夜空に昇っていき、  
新しい星座になっていました。



月

祖

「あなたが集めた光は、消えたんじゃない。

空に届いたのよ」

この物語から：

小さな光を集め続ければ、

いつか大きな輝きになる。

ルナの星座は今も夜空で輝いています。



おしまい

